

がん患者の不便さに関する調査

独立行政法人国立がん研究センター

中央病院看護部

企画経営部

2012.6.13

調査の背景・目的

独立行政法人国立がん研究センターは、創設以来、がんの研究・治療の発展に全力を挙げて取り組んできました。しかし、がんを抱えて生活している人が増えている現状を踏まえ、患者さんが暮らしやすい社会を作ることへの寄与も、当センターの大切な役割の一つであると考えます。

これまでも、がん患者さんの生活上の困難や不便さの研究は行われていますが、対象疾患や治療を限定したものが多く、疾患や治療を問わず、がん患者さんを幅広く対象にして、生活上の困難や不便さについて調査したものは殆どありませんでした。

当センターでは、創立50周年記念事業として、国立がん研究センター中央病院の外来に通院するがん患者さんから、日常生活上の不便さ、生活上の工夫について生の声を聞き、がんの治療や病気により生じている不便さを明らかにするとともに、その軽減に役立つ情報提供をしていくための調査を企画しました。

本調査結果を踏まえ、創立50周年記念イベントにおいて、「がん患者の暮らしが広がるアイデア展」を開催することとしたところであり、これにより、がん対策推進基本計画が掲げる「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」の一助となればと思います。

調査日 平成23年5月25日(水)

7時30分～18時

対象者 外来患者 1192名(配布数)

回収数 742名(回収率 62.2%)

男性 373名(50.3%)

女性 364名(49.1%)

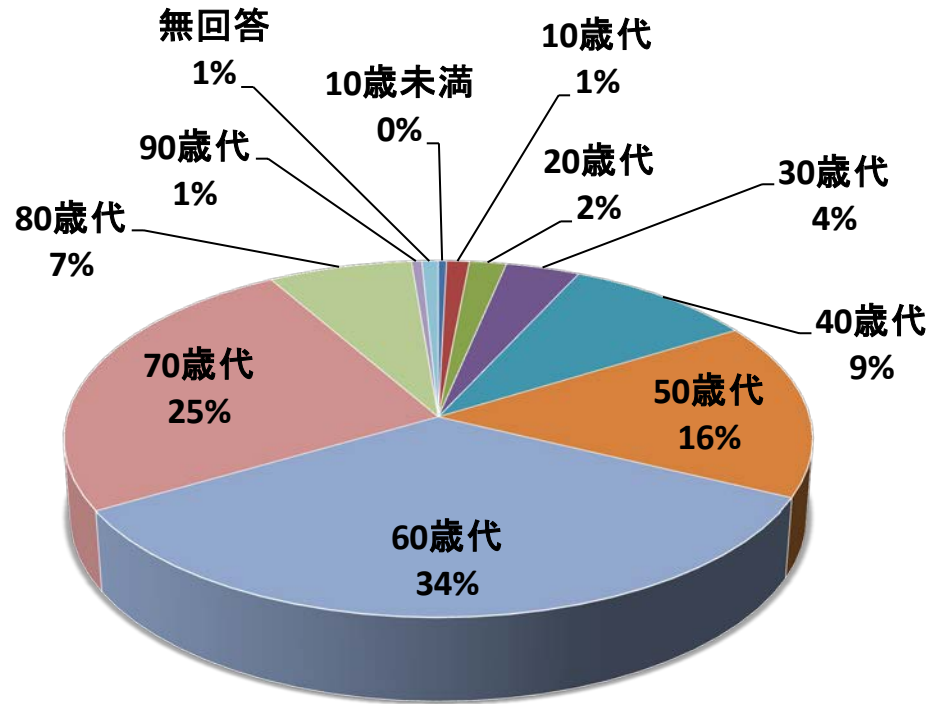
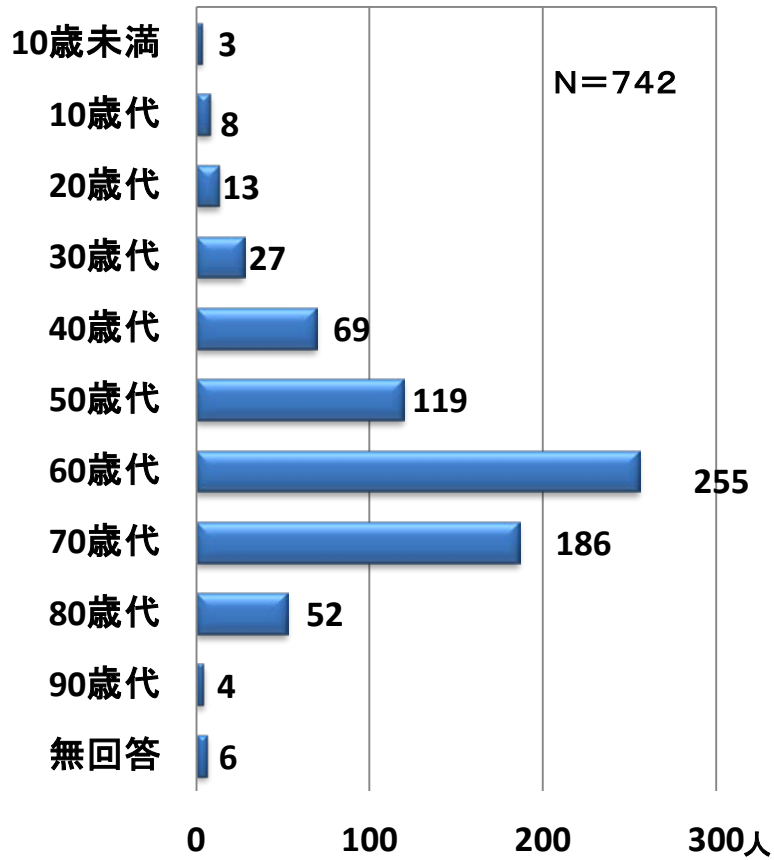
不明 5名(0.6%)

基本属性のみの記載 289名(38.9%)

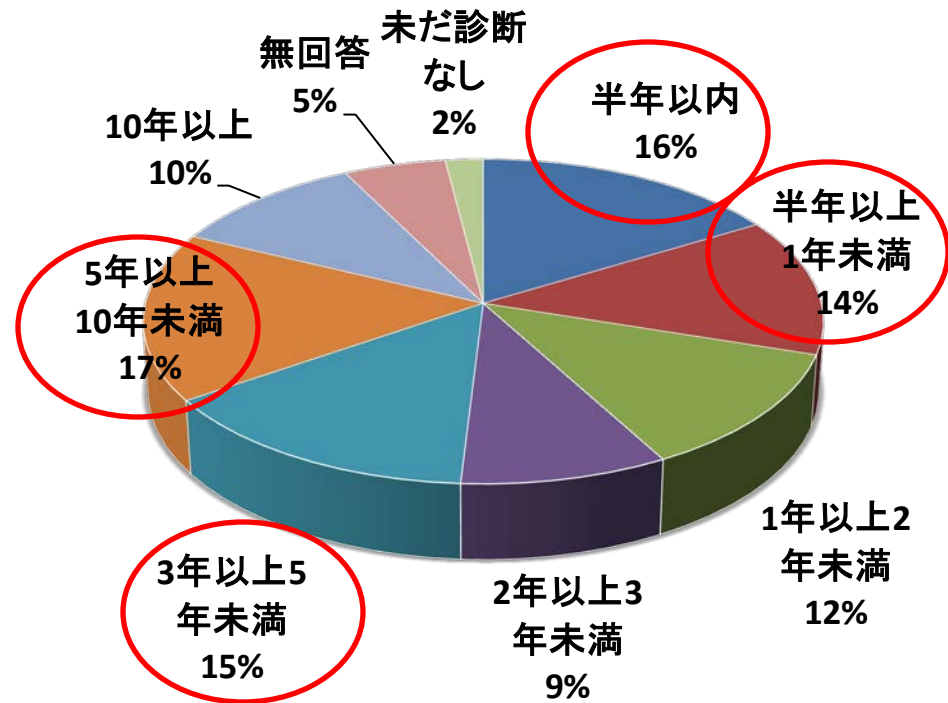
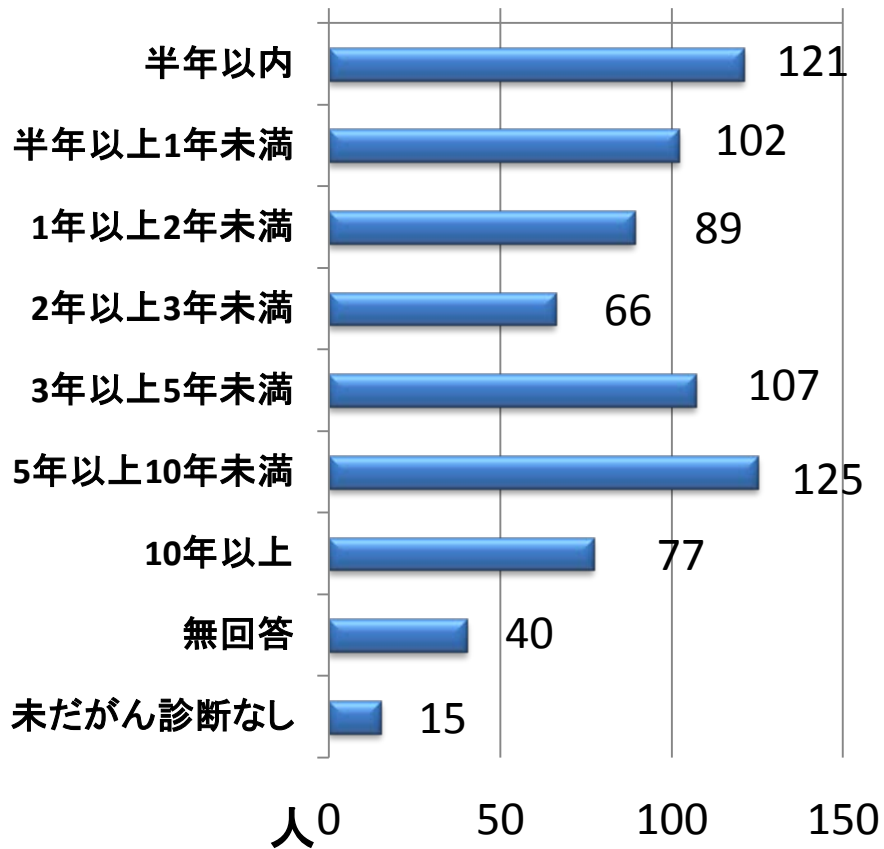
全てに回答した者 453名(61.1%)

公表予定 平成24年度内 日本がん看護学会誌

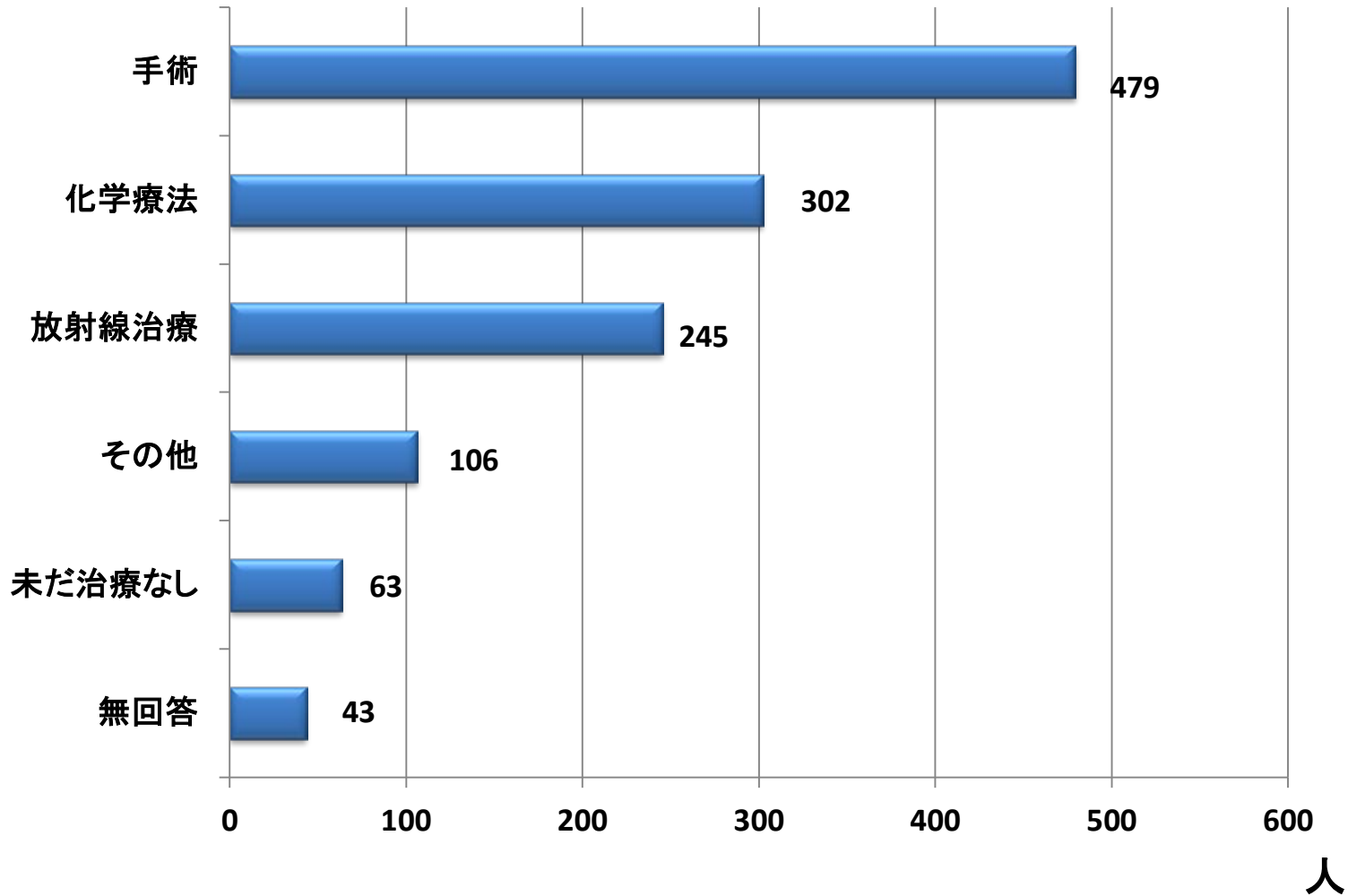
年代別回答者数



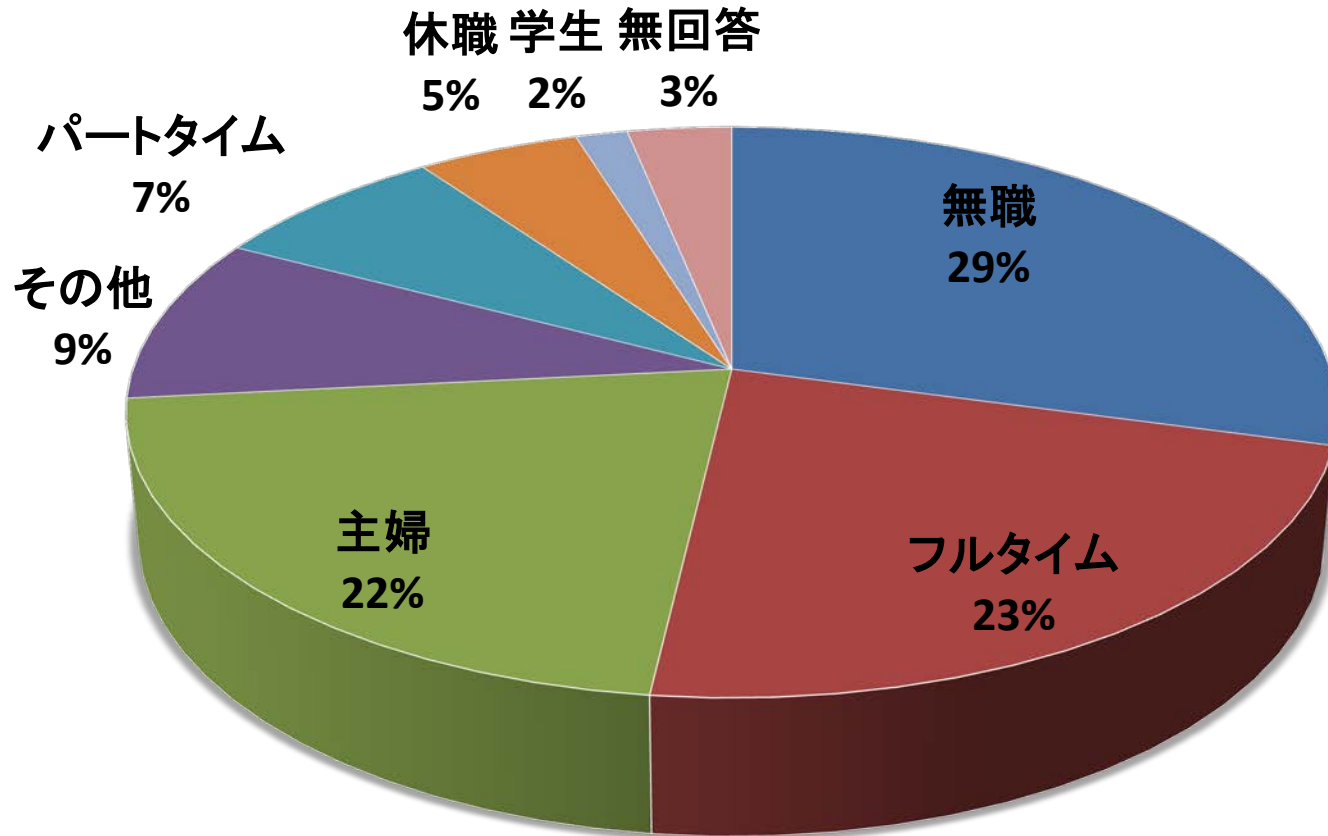
がんと診断されてからの期間



受けた治療(複数回答)

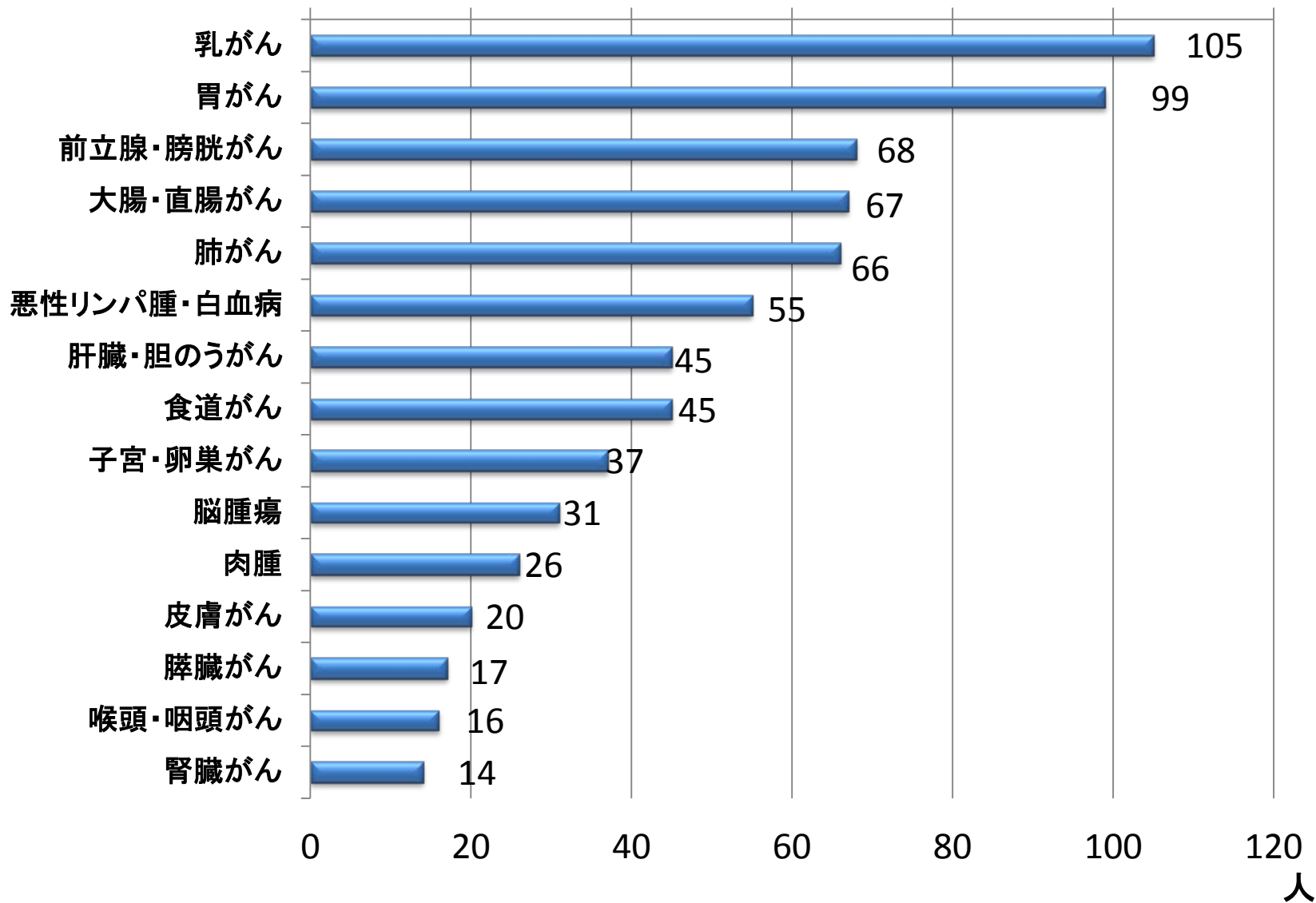


就業状況



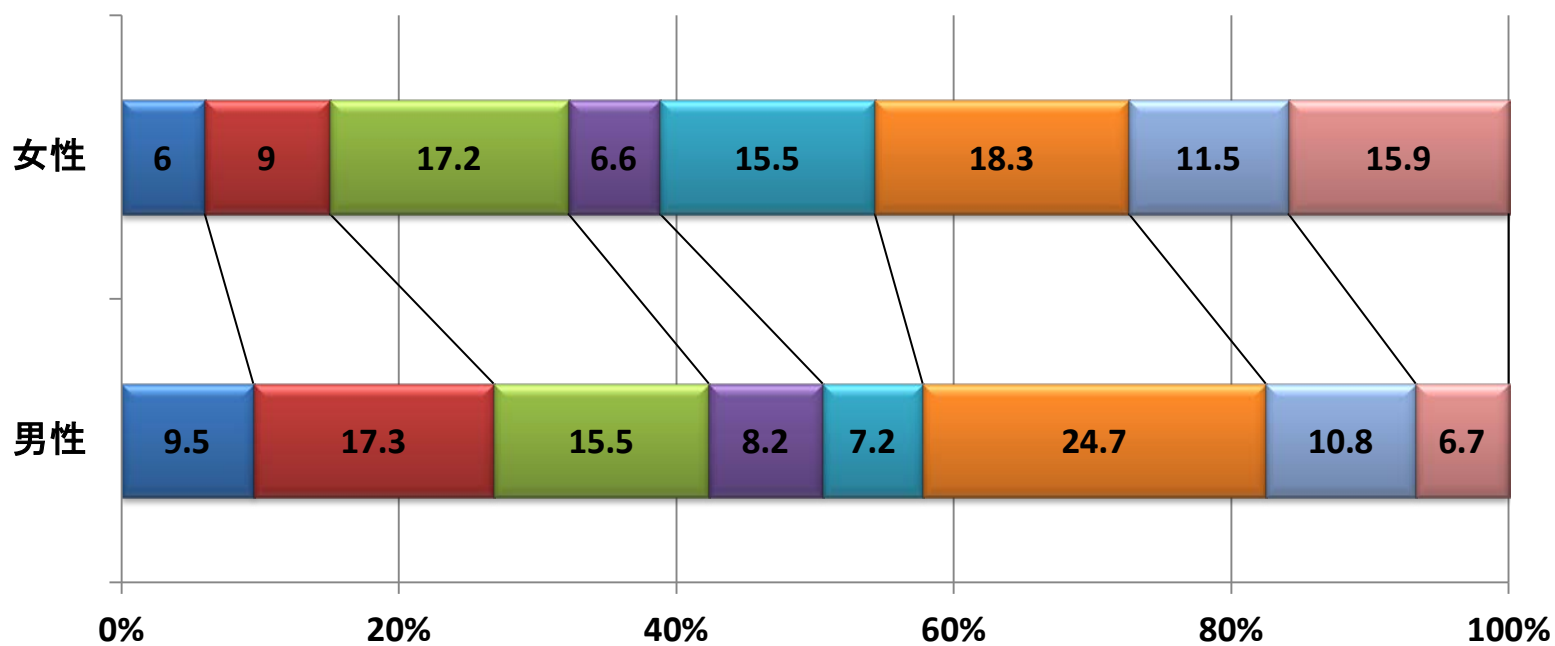
診断名別 回答者数

N=711

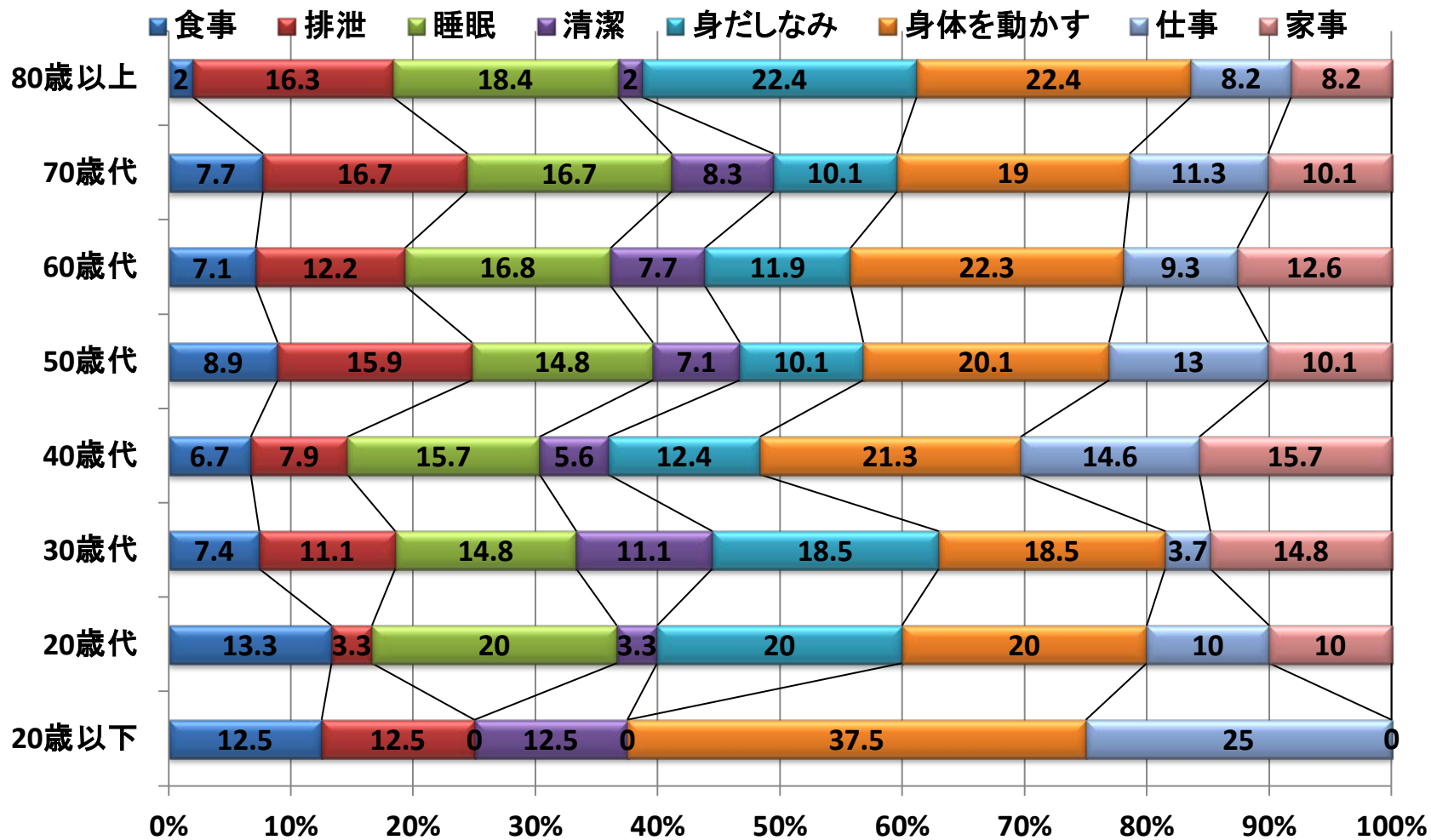


性別による不便さ

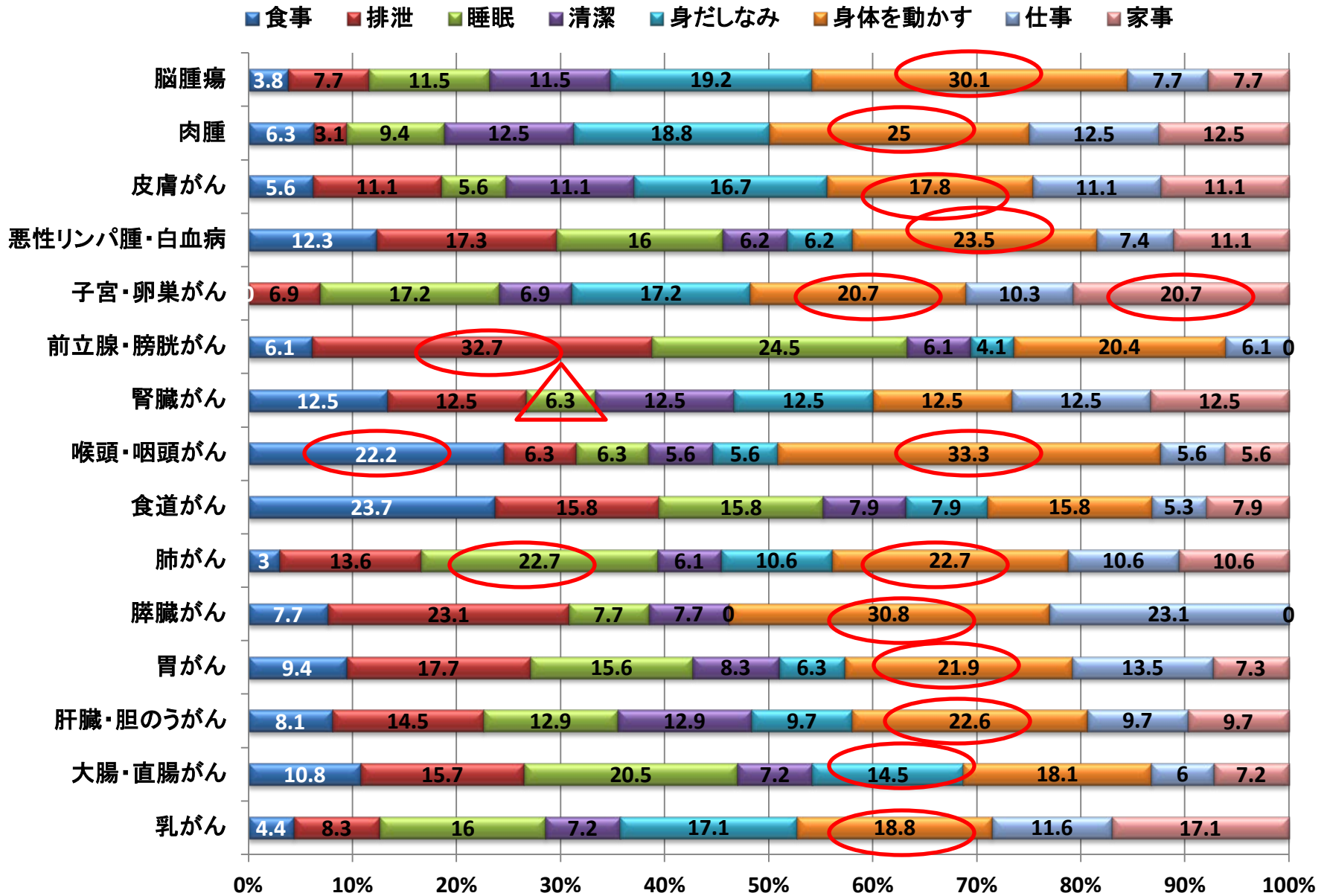
■ 食事 ■ 排泄 ■ 睡眠 ■ 清潔 ■ 身だしなみ ■ 身体を動かすこと ■ 仕事 ■ 家事



年代別不便さ



診断名と不便さ



調査結果による不便さの例

| 項目 | 不便さ |
|------------------|---|
| 食べること | 外食は、高蛋白、生もの、肉、油、濃い味などのため困る |
| | 食事に時間がかかる |
| | 味覚が変わり食欲がない、食べられるものが限られる |
| | 匂いに敏感になり、食べられない |
| | 食べ物がつかえて飲み込めない |
| | 手術後舌が思うように動かない |
| | 唾液が出なくて水気のないものが食べにくい |
| 身だしなみ | 病気や、治療により体型が変わったり、身体に管類がついていて、衣類の選択が限られてしまう |
| | 皮膚が過敏になっていたり、脆弱になっていて、衣類による皮膚への刺激がある。 |
| | 皮膚が過敏になっていたり、脆弱になっていて、化粧品の選択が難しい。 |
| | 乳房切除後のブラジャーが合わず苦勞する |
| | 頭髪がないと、汗や皮脂の影響が大きくなる |
| | 脱毛のために外出をしなくなる |
| | 髪が薄く細くなり、以前と同じような髪に戻らない |
| | カツラについて、装着の面倒さ、不快感、購入費が高いなどの不便さがある |
| むくみにより靴下や履き物がきつい | |
| 清潔 | しびれのため汚れが落ちたか感覚がない |
| | 寒に敏感になって、洗面所や風呂に長い時間いられない |
| | 肌が敏感になったため、石鹸があまり使えない |
| | 嗅覚変化のためシャンプーのにおいにも不快感を感じる |
| | ストーマや気管孔、創があるため入浴の際不安がある |
| 排泄 | 尿漏れがあり尿パットがはずせない |
| | ストーマ袋が気になって寝れない |
| | 頻回の排尿、排便のためつらい |
| | 外出先で紙パンツ、紙オムツの交換場所を探すのに苦勞する |
| 睡眠 | 寝返りや体位が制約されるために、睡眠が阻害されている |
| | 気管孔やチューブがあるために寝る姿勢が制限される |
| | 不安や精神的な問題で睡眠が阻害されている |
| | 治療や薬剤の影響で睡眠が阻害されている |
| | 中途覚醒、早朝覚醒、寝つきの悪さ、不眠などに悩まされる |
| 睡眠薬がないと眠れない | |
| 身体を動かすこと | 足の痺れにより和室は歩けない |
| | 立ち上がるのが困難である |
| | 階段昇降が大変である、辛い |
| | 感染に注意しなければならないので外出しづらい |
| | 手の皮膚が薄くなっている、又、感染が怖いので吊り革がつかめない |
| | 排尿、排便により外出が不便、不安である |
| 家事 | 洗濯物を運んだり、干すことができない |
| | 掃除の埃やカビを吸いこむ不安がある |
| | 感染が心配で庭の手入れができない |
| | 包丁が持つときに力が入りにくく、使いにくい |
| | 味覚異常のため、料理の味付けができない |
| | 爪の変化や指先のしびれ・痛みのため、細かい作業ができない |
| 仕事・社会生活 | 体調や治療の副作用のために仕事ができない |
| | 通院で仕事を休まなければならない、迷惑をかける、社会や職場の理解が得られない |
| | 病気のことを会社にどのように伝えて良いかわからない |
| | 仕事中的かつらが不便、不快である |
| | 一度に食事や水分が多くとれないので、飲食が自由にできないことが困る |
| | 元気づけようとする友人を断ることが申し訳ない |
| | 病気を知らせたことで、友人や知人が自分から離れていき不安 |
| | 病気のことを子供にどのように説明すればよいか分からない |
| | 自分のことで子供のいじめが不安 |
| | がんであることを周囲に伝えられないため、付き合いに苦勞する |
| | 信頼のおける情報源、相談窓口、社会資源のサービスなどの情報が不足している |
| | 抗がん剤にかかる費用が高い |